



Searchlight

一般社団法人日本RPF工業会

2026年新春号

明けましておめでとうございます。

平素は工業会の活動にご理解とご協力賜り、誠にありがとうございます。

旧年中は大変お世話になり、深く感謝申し上げます。

寒さが厳しい季節ではございますが、皆様いかがお過ごしでしょうか？

今月号は年頭所感ならびに昨年実施しました工場見学会、青年部会の活動、安全大会、外国人技能実習試験についてご案内いたします。

年頭所感

«一般社団法人日本RPF工業会 会長 三輪 陽通»

謹んで新春のお慶びを申し上げます。皆様におかれでは期待や希望に満ちた新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

RPFの役割は、世界的なエネルギー需給の不安定化、資源循環型社会への移行、そしてカーボンニュートラルの実現に向けた国際的な機運が高まる中、ますます重要性を増しております。廃棄物処理とエネルギー創出を同時に実現するRPFは、地域社会の抱える課題を解決しつつ、安定したエネルギー供給を支える「地域密着型の資源循環インフラ」へと進化していくことが求められています。



単に燃料としての利用価値を高めるだけでなく、原料選別技術の向上や異物混入防止に向けた取り組み、品質規格の更なる明確化・高度化を進め、信頼されるエネルギーソリューションとして地位を確立することが不可欠です。また、環境負荷を最小限に抑える生産プロセスの追求や、最新技術を取り入れた自動化・省人化への取り組みは、産業としての競争力向上にも直結いたします。

工業会としても、会員企業の皆様が安心して事業に取り組めるよう、制度面・技術面双方でよりきめ細かな支援を提供してまいります。RPFの可能性をさらに広げるための省庁への働きかけや、セミナーなどを通じた情報共有の場づくり、外国人技能実習生や人材育成の強化などにも引き続き積極的に取り組んでいく所存です。特に、昨今注目されるカーボンフットプリントの可視化や、GHG排出削減効果の定量的評価については、業界として統一的な手法の確立が急務であり、議論と取りまとめを進めてまいります。

また、国内市場のみならず、台湾をはじめアジアを中心とした海外との技術交流や国際規格との整合性確保に向けた情報収集・発信についても積極的に進めてまいります。

結びに、本年が皆様にとりまして幸多き一年になりますことを御祈念申し上げます。

«安全衛生委員長 本間 洋士»

新年あけましておめでとうございます。謹んで新春のお慶びを申し上げます。

昨年中は、当工業会の活動にご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

安全衛生委員会では、2025年6月に改正した労働安全規則 熱中症対策義務化について、

昨年5月、改正内容をまとめた概要案内と熱中症の恐れのある者への処置フロー及び熱中症報告体制のひな形を発信しました。また、11月に9回目となった安全大会を開催し、多くの方々よりご参加をいただきました。今回の安全大会は、火災事故をフォーカスし、会員企業の工場管理者から集めたアンケート結果を基に、委員が現地取材した内容を発表しました。リチウムイオン電池類に起因した火災事故を防止するため、初期消火システムの必要性を認識する機会となりました。

一方、政府は、経済損失防止対策事業として、民間廃棄物処理施設において、混入するリチウムイオン電池等をX線やAIなどを活用した高度選別設備や初期消火システムに対し、令和7年度の補正予算に組込み導入支援する予定です。

以上、本年が穏やかで潤いのある年になりますことをご祈念申し上げ、新年の挨拶といたします。

«技術品質委員長 見澤 直人»

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひいたします。

昨年開催された大阪・関西万博では持続可能な開発目標（SDGs）達成への貢献が目的に掲げられ、日本館では「循環」というテーマのもと、世界に貢献しうる日本の先端的な技術等が世界へと発信されました。また、11月には再資源化事業高度化法が全面施行されるなど、加速度的な環境への取組の実施が急務となっております。

本年は技術品質委員会では、新たな取組として意見交換会を実施いたします。

従来の情報提供に加え、会員間での情報共有、課題の明確化を狙いとしております。

会員企業の皆様にとって新しい年が幸多きものとなりますようお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

«海外事業支援委員長 片境 邦喜»

新年あけましておめでとうございます。本年も宜しくお願ひいたします。

今年は当会とMOUを締結しております台湾バイオマス協会とは勿論ですが、その他の

各国とも交流を通してバイオマス燃料関連におけるネットワーク作りを行い、会員企業様へ有益な情報をご提供出来るよう取組んで参ります。

来期は東南アジアへの海外視察を計画しております。

本年が本会及び会員企業の皆様にとって進歩・発展の年になります様、祈念申し上げます。

«サステナビリティ推進委員長 田墨 啓治»

新年あけましておめでとうございます。本年も宜しくお願ひ申し上げます。

昨年度は用途開発委員会の名称をサステナビリティ推進委員会として活動が始まりました。

現在はRPFの需給だけではなく環境、社会、経済の持続性を鑑みて視野を広げた活動にして行くことと致しました。

先ずはCP研究分科会でRPFの環境価値と経済的価値を繋げるための探求に取り組んでおります。先日行った勉強会ではGX-ETS制度の目的や目指すべき成果の勉強を行い参加者からも好評を得ました。

又、7月の視察研修ではTBM社多賀城工場、J&T環境社仙台事業所の工場見学を実施しました。環境配慮型

製品製造や容器包装再商品化施設をどのように運営されているのか、視野を広げて考え方や取り組みを見聞できました。

本年3月には過去の環境社会問題でその後の廃棄物政策に大きな影響を受けた「豊島事件」の当時の状況を知る講演や今後の自動車業界の動向について勉強を行います。

引き続きGX-EST制度や他業界の動向など我々の事業への影響について探求する活動を行ってお参ります。

当委員会にご興味を持たれましたら是非一緒に参加頂きたくお願い申し上げます。

本年も皆様にとって良い年になりますようご祈念申し上げます。

《総務広報委員長 平林 正幸》

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、会員企業の皆様大変お世話になりました、本年も引き続き宜しく御願い申し上げます。

広報活動として、本年より環境展での協会アピールの場から、脱炭素EXPOへシフトを切り替え、新たなニーズの開拓とRPFの有益性を最大限アピールしていきたいと思っております。

昨年11月21日に全面施行がされました「再資源化事業等高度化法」についての情報発信なども事務局とも調整を図りながら進めてまいりたいと思います。

会員企業の皆様にとって本年が素晴らしい一年になること、工業会の更なる発展を心より祈念申し上げます。

本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

《青年部会長 小川 貴広》

新年あけましておめでとうございます。日頃より皆様のご支援とご協力に心より感謝申し上げます。

昨年は、前年に引き続き好評を得ておりました「工場長サミット」を継続事業として開催させていただきました。その他にも視察研修、交流事業と会員企業の皆様の人材育成ならびにネットワーキングを推進する年となりました。

2026年も止まることなく、会員の皆様とともに事業を創出し、工業会活動に寄与できるよう取り組んでまいります。

本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

《第9回安全大会実施報告》

日時：2025年11月6日（木）

主催：一般社団法人日本RPF工業会 安全衛生委員会

場所：エッサム神田ホール2号館 大会議室

参加：88名（現地開催のみ）

三輪会長、安全衛生委員会本間委員長のご挨拶から安全大会が開催されました。

廃棄物処理業界の火災事情等を話題にされ、より安全な操業を目指すための取組が必要ということをお話しさされました。

今年度の大会では災害対策をメインとし、第1部では火災・風水害・BCPにおけるアンケートの結果分析の発表を実施し、当業界での火災件数の多さが非常に際立っていました。



続いて当委員会が災害被害とその対策を実施されている企業様への取材を実施した結果報告を発表し、実際の火災時の写真・映像等の報告もありインパクトの強い内容となりました。また、対策の報告において自動初期消火システムの普及が非常に進んでおり、昨今で問題となっているリチウムイオン電池への対策を各企業が実践していることがうかがえます。

第2部では日本ウエスト関東株式会社様より実際に発生した水害事例と対策についての発表がありました。2019年10月の台風19号に起因した河川決壊による当時の生々しい映像とその被害状況の報告をしていただき、水害が発生した際の恐ろしさというものを実感する内容がありました。災害後は電気設備の基礎のかさ上げや重要書類の電子保管等の対策を実施され、BCP認定も受けられたということで防災・減災への活動に非常に注力されています。

加山興業株式会社様からは自社開発の自動初期消火システムについてのお話を頂きました。実際に産業廃棄物の処理を行っている企業だからこそ可能な、実処理業務における様々な火災発生懸念箇所をピンポイントに消火できるシステムとなっており、従来の大規模スプリンクラーで発生する電気設備の水濡れ等の二次被害を発生させない、復旧が早い仕組みとしてご紹介いただきました。

また労働事故CG動画配信サービスを提供されている株式会社ジコゼロ様よりもお話をいただき、労働災害をCG動画にてリアルに体感でき、労働安全衛生教育において目から入る情報というものは効果が大きく非常に取り組みやすいツールがありました。

環境省からもご出席賜り業界のリチウムイオン電池起因等の火災現況やその取り組みについて広く発信できたといえる安全大会となりました。

«カーボンプライシング研究分科会 勉強会»



日時：2025年11月20日（木）

主催：一般社団法人日本RPF工業会

サステナビリティ推進委員会

場所：エッサム神田ホール2号館 大会議室

参加：70名（現地開催+オンライン）

カーボンプライシング研究分科会(以下CP分科会)の勉強会を経済産業省、環境価値取引市場運営会社、J-クレジット開発・販売会社から、クレジットをけん引しておられる講師陣をお招きし開催いたしました。

■テーマ導入：RPFの環境価値

最初に、テーマ導入として、CP分科会委員長の関商店 吉武氏より、RPFの低CO₂という環境価値を石炭、LNG等の化石燃料と比較し、RPFの優位性を説明後、この環境価値を経済的価値ポテンシャルに算定する事例を提案いたしました。

■第1部：GX-ETS制度設計について

経済産業省 製造産業局 素材産業課 課長補佐 村松雄太様をお招きし、素材産業の競争力とGHG排出の

評価、GXの世界的な動向、合わせて国内素材産業のGXを絡めた競争力強化を目指してのGX-ETSの制度設計のご説明を受けました。

■第2部：カーボンクレジット取引の市況

環境価値取引所を運営されている株式会社enechain社 マネージャー 高波翼様からは、カーボンクレジット取引の基礎や、最新の市況状況、今後のCO2販売単価見込み等をご教授頂きました。

■第3部：J-クレジット化のポイント

J-クレジット創出・販売、およびコンソーシアムを立ち上げられたクレアトゥラ社 CEO服部倫康様からは、J-クレジットの概要、およびRPF使用をJ-クレジット化する際のポイント、更に今後のクレジット市況等のお話を講演頂きました。

全体を通して活発な質疑応答がなされ、講師陣からも好評を頂き、非常に質の高い勉強会となりました。今期のCP研究会の活動目標は、クレジット等環境価値やETSに関する基礎固めであり、来季は、GX-ETSやクレジット市場をベースに、経済的価値ポテンシャルの算定を目指したいと考えます。

※当日の講演内容は当会HPの会員ページ掲載予定です。

【編集後記】

本号では新年にあたり、会長および各委員長からの年頭所感をお届けいたしました。

排出量取引制度（GX-ETS）や再資源化事業等高度化法への対応、海外連携など、本年も多岐にわたる活動が計画されております。会員の皆様の事業活動の一助となるよう、総務広報委員会一同、有益な情報発信に努めてまいります。

（文責：総務広報委員長 平林 正幸）